

## 『仮想空間シフト』



尾原和啓・山口周(著)

MdN新書  
(2020/8)  
980円

変化するものと、変化しない本質的なものの両側面で、これからの時代について解説している一冊。

## 【感想】

コロナの影響について本は多く出ていますが、変化の本質と働く世代への影響を明示している一冊です。

リモートワークの先にある「リゾートワーク」、モノを保有するコストの低下、ファッションのデジタル化、東京の仮想空間化、輸送の最小化など、これから起こる変化を予測しています。

変化の本質という観点では、「熱狂できる仕事さえ提示することができれば、報酬は関係なく世界中の人が手伝ってくれる可能性がある」と主張されており、どこでも仕事ができる時代になりつつある状況において、「働く目的・仕事の意味」を見出して、世の中や全社員へ発信していくことの重要性を教えてください。

## 【以下引用】

「若者が草食化している」とか「ハングリーさが足りない」なんていうことを上の世代の人が言いますが、それは全くピントが合っていません。ようは何に対してハングリーなのか、という価値観の違いですから。報酬ではなく仕事の意味に対してハングリーになっているのに、「これだけ報酬を上げるからしっかり働けよ」とだけ言って監視もなければ、生産性が上がるわけがありません。

・自分の仕事に働きにやりがいを感じられない、という人は非常に多いと言われています。だからみんなそこに渴望している。これは市場原理で言うと需要と供給のギャップがすごいということで、見方によっては凄いチャンスなんです。

やりがいのある仕事を求めている人はめっちゃくちゃいるのに、それを供給している企業が少ない。

・ジョブクラフティングの考え方は大きく二つあります。一つは目の前の仕事を大きく膨らませて一つの物語を考えること。例えば、ショッピングセンターの駐車場の案内係といった一見単調な仕事であっても、「家族で週末の貴重な時間を使って買い物にきてくれている。その家族の時間を少しでも楽しいものにしてあげよう」という説明をして「お客様の楽しみのエントリーポイントを私は預かっているんだ」という風に考えてもらうことができれば、きっとその人はやる気を出して意欲的にお客様を案内してくれるはずです。

もう一つは、逆に仕事をどんどん小さくしていくことで「やりこみ要素」を作り出すこと。元メジャーリーガーのイチロー選手は素振りをする際に、毎回具体的な対戦相手やシチュエーションをイメージしていたそうです。「今日の対戦相手はベテラン投手で、ストレートの球威は衰えてきているがスライダーの切れが素晴らしい。そのスライダーに対応するためには腰のひねりをこうして」こうやって考えることで素振りという単調なトレーニングを毎日楽しくやりがいをもってこなすことができるのです。

著書を読んで、これからは益々「経営計画書」が大事だと気づかせてくれました。会社の存在意義を明確に示すことで、お客様や人材がより集まる時代となりそうです。